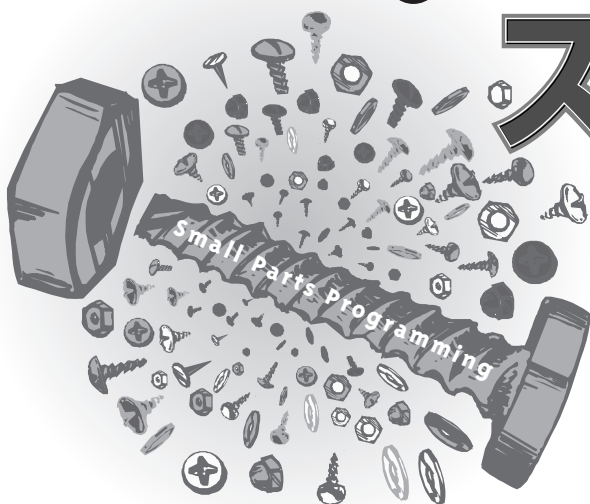


VB.NET

コンポーネント活用講座
～ 教養課程 ～



スモールパーツ プログラミング

第15回

小森 大輔 KOMORI, Daisuke

List View コントロール — Part 3 —

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

Level



Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥SMALLディレクトリに収録しています。

¥CHECKBOX

CheckBoxを表示し、チェックされたアイテムを取得するサンプル

¥STATEIMAGELIST

StateImageListプロパティの使用例

¥ITEMCHECKEVENT

ItemCheckイベントの使用例

¥ACTIVATION

ActivationプロパティとItemActivateイベントの使用例

¥LABELEDIT

LabelEditプロパティとAfterLabelEditイベントの使用例

本連載は、Visual Basic .NET (以下VB.NET) の標準コントロールにスポットを当て、とことん使い込んで、その機能や役割を探ってゆきます。

今回はListViewコントロールの列ヘッダーのクリックにかこつけて、並べ替えに関するお話をしたばかりに、ListViewコントロールの機能についての説明が終わらなくなってしまいました。今回はListViewコントロールの完結編ということでいってみましょう！

アイテムへのチェック ボックスの取り付け



◆ CheckBoxesプロパティ

ListViewコントロールは、CheckedListBoxコントロールと同じように、リストアイテムにチェックボックスを付けて表示することができます。チェックボックスを付けるには、CheckBoxesプロパティを“True”に設定します。

図1は、このプロパティをTrueにしてチェックボックスを表示させたListViewコントロールです。

◆ CheckedIndices/ CheckedItemsプロパティ

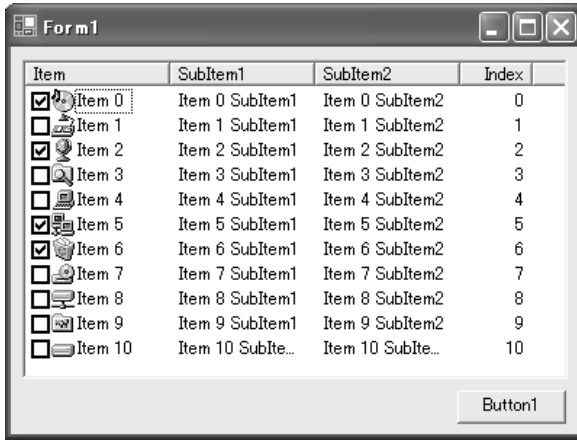
このようにチェックボックスを付けたListViewコントロール内の“チェックされたアイテム”を取得するには、CheckedIndicesプロパティ^[注1]を参照します。また、チェックされたアイテムをListViewItemの形で取得する際は、CheckedItemsプロパティ^[注2]を参照します。

リスト1は、これらのプロパティを使用し、チェックされているアイテムのインデックスと、ListViewItemオブジェクトのテキストを出力するサンプルです。図2は、図1

注1) チェックされているアイテムのインデックスのコレクションであるCheckedIndexCollectionクラスを表わすプロパティです。

注2) チェックされたアイテムのコレクションであるCheckedListViewItemCollectionクラスを表わすプロパティです。

図1：チェックボックスを付けたアイテム



のようにアイテムをチェックした状態でリスト1のコードを実行した際の出力画面です。

StateImageListプロパティ

CheckBoxesプロパティをTrueにしたListViewコントロールでは、チェックボックスの代わりにStateImageListプロパティで指定したImageList内のイメージを、チェック状態に合わせて表示させることができます。この機能を利用すれば、Windows XPでの新しい形式のチェックボックスと同じようなものにしたたり（図3）、極端な例では図4のような形にもできたりします。

なお、.NET Frameworkのドキュメントには、「StateImageListプロパティに指定したImageListの、インデックス0 (OFF) および1 (ON) にあるイメージが表示される」

との記述がありますが、私が試してみたところ、StateImageListプロパティに指定したImageList内に、2つ以上の複数のイメージが格納されている場合には、インデックス順にすべてのイメージが表示されるようです。この場合に気を付けなければならないことは、

- ImageList内の複数のイメージはインデックス順に表示されるが、ListViewItemのCheckedプロパティの値は、インデックス“0”のイメージが表示されている場合のみFalseになり、他のイメージが表示されている場合は常にTrueになっている

図2：チェックされたアイテムの出力



リスト1：チェックされたアイテムの取得（サンプルCheckBox）

```

Private Sub Button1_Click(ByVal sender As Object, _
    ByVal e As EventArgs) Handles Button1.Click
    Dim idx As Integer
    Dim lvi As ListViewItem

    ' 項目名を出力
    Debug.WriteLine("[Checked Index]")

    ' CheckedIndicesプロパティで、チェックされた
    ' アイテムのインデックスのコレクションを参照
    For Each idx In ListView1.CheckedIndices
        ' 出力ウィンドウへ出力
        Debug.WriteLine(idx.ToString())
    Next idx
    ' 項目名を出力
    Debug.WriteLine("[Checked Item]")

    ' CheckedItemsプロパティで、チェックされた
    ' アイテムをListViewItemのコレクションとして参照
    For Each lvi In ListView1.CheckedItems
        ' 出力ウィンドウへ出力
        Debug.WriteLine(lvi.Text)
    Next lvi
End Sub
    
```

図3：チェックボックスを代用するイメージを表示

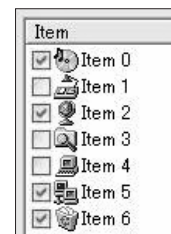


図4：カスタムチェックボックス

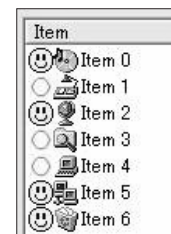
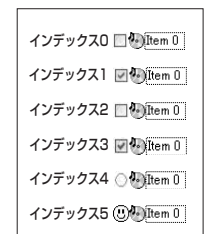


図5：StateImageListのイメージ



ということです。たとえば図5は、ImageList内に格納されたイメージと、そのインデックスを表わした図です。このようなImageListをStateImageListプロパティに指